

第 2 学年 国語科学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日 時 平成 18 年 10 月 2 日 (月) 5 校時

学 級 2 年 2 組 (男子 14 名 女子 19 名 計 33 名)

授業者 中村 正成

1 単元 4 古典に親しむ 「漢詩の風景」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は古典教材の一つである。1 年次の学習では、古典と出会い、古典とはどういうものかを知ることが学習の最大のねらいであったが、2 年生になって、随筆・物語・漢詩の原文を通して、その表現から古人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむことへと発展させていくことが目的となっている。

漢詩の歴史は紀元前にさかのぼる。最古の漢詩集と言われる「詩経」を皮切りに、先人たちの様々な工夫を経て、唐代に大成した。中でも盛唐(8 世紀初頭)は漢詩史上の最盛期であり、李白・杜甫・孟浩然ら優れた詩人を数多く輩出した。彼らの作品は現代でも愛され、また現代人も共感できる点が多々ある。

本時の教材「漢詩の風景」は、日本人に最も親しみのある孟浩然の「春暁」、杜甫の「絶句」、李白の「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を取り上げている。書き下し文と原文の後ろに解説を配し、初めて漢詩にふれる学習者に段階的に理解ができるように配慮がなされている。音読により漢詩の表現の美しさやリズムをとらえ、自然の巧みな描写に気をつけながら作者の感動や悲しみといった心情を味わわせることによって、漢文に親しみを持たせることのできる教材だと考えられる。

(2) 生徒の実態

4 月に実施した国語に対する意識調査では、半数程度の生徒が「とても好き・好きな方」と答えた。主に、物語文を読み味わうのが好きな生徒が多く、読書も積極的に行っている。一方で、漢字の書き取りや文法の学習に苦手意識を感じている生徒も多い。

国語の授業に関しては、生徒たちはおおむね意欲的に取り組んでいる。これまでは詩や物語文、説明文などの学習を行ってきた。挙手による発言はやや固定化の傾向にあるものの、指名すると自分の考えを持ってしっかり話せる生徒が多い。ただし、班毎での話し合い活動や意見の交流をさせると、不慣れなせいか意見がまとまらないことがある。この点は、話し合いをする上での注意点を明確に示し、支援しなければならぬと思われる。

古典に関しては、1 年次に学習したものの文語文に対する抵抗が強いようである。内容を理解させつつ、音読を多く取り入れ、漢文独特の調子を味わわせ、漢詩に興味を持たせたい。

(3) 指導の構想

国語科における思考力・判断力とは、国語教室における学習活動のすべてに関わっているものであり、「理解する力」や「表現する力」とも密接な関わりがある。そこで、本校では、生徒の実態に即して、「読むこと」の指導において「理解する力」を高めることを重点に指導を行うことにした。

指導にあたっては、まず一人ひとりに作品を声に出して読ませながら、読みに対する抵抗を和らげ、親しみを持たせたい。その上で、時代背景を押さえ、興味を持たせながら情景や心情を読み取らせたい。最後に漢文独特のリズムや様々な表現技法に気づかせたいと考えている。

3. 教材の目標

- (1) 漢詩を読む楽しさを知り、様々な作品を読もうとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 漢詩にふれ、詩に歌われている情景を想像し、作者の心情をとらえることができる。(読むこと)
- (3) 漢詩特有の調子を生かし、表現や文章の特徴に注意して読み味わうことができる。(読むこと)
- (4) 音声の働きに関心を持ち、理解を深めることができる。(言語事項)

4. 指導計画

- 3編の漢詩を音読し、学習の見通しを立てる。…………… 1時間
- 3編の漢詩の描かれた情景や心情をとらえることができる。…………… 1時間
- 漢詩のきまりについて理解し、送り仮名や返り点に注意しながら、訓読文を読む。…………… 1時間
- これまでの学習を発展させ、押韻について理解し、そのおもしろさに気付く。…………… 1時間(本時)

5. 本時の目標

- ・押韻の意味とそのおもしろさに気づき、漢詩により親しむことができる。

6. 本時の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	漢詩を自ら進んで音読し、その独特なリズムを感じ取ろうとしている。	押韻の意味を理解し、発音を聞くことによって漢詩における押韻の部分を見つけている。	押韻の織りなすリズムカルな調子をとらえ、音声の働きについて理解を深めている。
具体的評価規準	おおむね満足 B 「春暁」を音読し、漢詩の独特なリズムを感じ取ろうとしている。	押韻の意味を理解し、「春暁」の朗読を聞いて漢詩における押韻の部分を見つけている。	押韻の織りなすリズムカルな調子をとらえ、音声の働きについてとらえている。
	十分満足 A 「春暁」を積極的に音読し、その独特なリズムを感じ取り、詩の内容を頭に思い浮かべようとしている。	押韻の意味を理解し、朗読を聞くことによって漢詩における押韻の部分を見つけ、他の詩における韻について考えている。	押韻の織りなすリズムカルな調子をとらえ、自ら積極的に発音することによって、音声の働きについて理解を深めている。
	Cへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・群読を通して、一人で音読する抵抗を無くして読ませる。 ・自ら朗読させることによって、漢詩における押韻の部分に気づかせる。 ・何度も強調して聞かせながら、調子をとらえさせる。 	

7. 本時の展開

本時の目標の評価場面 聞き方 LV 学力

	学習過程	生徒の活動	指導上の留意点
導入 五分	1. 前時の確認 2. 学習課題の把握	1. 前時を想起して「春暁」の訓読文を朗読する。 2. 本時の学習課題をつかむ。	国語への関心・意欲・態度 ・「春暁」の訓読文を読んでいるか。 学ぼうとする力（関心・意欲・態度） ・訓読文はもともとは白文を読むためのものであったということを思い出させる。 ・本時は転校生（中国人）にも国語の授業に参加してもらうことを伝える。
中国の友達の朗読を聞いて、漢詩の特徴をとらえよう			
展開 三十五分	3. 課題の予想	3. 課題について予想を立てる。 ・書き下し文を読むときとどのような違いがあるだろう？	学ぶための力（思考力） ・漢字の音読みなどに気づかせながら、予想する手だてを与える。
	4. 課題の追求	4. 漢詩の朗読を聞く。 (1) 転校生（中国人）が中国語で「春暁」を何度か朗読する。他の生徒は聞いて、感想や気づいた点をまとめる。 (2) 学級内で気づいた点を交流する。 LV7	学ぶための力（思考力） ・中国語の独特のリズムに注意しながら聞く。 ・自分の考えを持ち、自分の意見を出し合う。 ・中国語の「春暁」をゆっくり何度も聞かせる手だてを行う。
	5. 課題の解決	5. 漢詩における「押韻」について考える。 (1) 「押韻」についてノートにまとめる。 (2) みんなで「春暁」を押韻に気をつけながら読んでみる。 (3) 他の漢詩についても考えてみる。	言語についての知識・理解・技能 ・「押韻」について理解しながらノートにまとめているか。 ・押韻の部分を強調して読ませる（完璧な中国語の発音は求めない）。 読む能力 ・他の漢詩における押韻を見つけているか。 ・他の漢詩を提示する。
終結 十分	6. 活用・一般化 7. まとめと自己評価	6. 日本語の詩についても考えてみる。 7. 今日の授業を振り返り、自分の取り組みの反省や感想をまとめる。	・日本語の詩を提示する。 ・評価用紙に記入する。